

ピロリ菌除菌治療に関する説明について
(当別町ピロリ菌検査及び除菌治療等費用助成事業)

ピロリ菌除菌治療及び治療後の除菌判定についての大切な説明です。きちんと読んでいただき、わからないところは必ず医師に相談してください。

除菌を希望する場合は、除菌治療同意書に必要事項を記入し、医師へ提出してください。受診する際は保険証を持参してください。

除菌治療等費用助成申請書は町（保健福祉課健康推進係）に提出してください。

1 ピロリ菌について

ピロリ菌は主に5歳くらいまでに感染し、胃の中に住み続けます。症状なく感染が続くことで胃炎が進行し、胃潰瘍や十二指腸潰瘍を引き起こし、胃炎の進行で、胃がんが将来発生する危険があります。日本で発見される胃がんの99%がピロリ菌感染によるものであることがわかっています。

除菌治療を行うことで、胃炎や潰瘍は治り、再発することもなくなります。胃がんも予防できることがわかり、感染して間もない時期に除菌することで胃がん予防効果がより確実になると考えられています。

ここ数年、ピロリ菌によって引き起こされる病気を予防することを目的に中学生を対象とした早い段階での除菌治療が注目されています。

2 ピロリ菌を治療する（除菌治療）方法について

胃酸の分泌をおさえる薬と抗菌剤2種類の計3種類の薬を1週間内服することで、ピロリ菌の治療（除菌治療）ができます。抗菌剤（抗生剤）の影響で下痢を認めることがあるため、抗菌剤（抗生剤）に強い整腸剤も一緒に飲んで頂きます。抗菌剤（抗生剤）で蕁麻疹などアレルギー症状を起こしたことがある場合は、必ず、事前に医師に相談下さい。

3 費用負担について

除菌治療(1回分)及び治療後の除菌判定を令和9年3月31日までに行った場合にかかる治療・検査費用は町が負担します。指定した期間外に受診した場合や除菌及び治療後の除菌判定以外の費用に関しては、ご本人・保護者の負担となります。

4 治療の副作用について

一番多い副作用は、下痢や軟便で、ピロリ菌を殺すために飲む抗菌剤（抗生剤）のために大腸の善玉菌も減少するために起こります。予防のために整腸剤を一緒に飲んで頂きます。1日数回程度の軽い下痢、軟便の場合は治療を継続し、脱水になる程のひどい下痢や、血便の場合には、治療を中止し、医師に相談して下さい。その他、味覚異常（味が少しおかしく感じる）や軽い嘔気などの副作用が現れることがありますが、いずれも治療が終わると自然に治るため軽度であれば治療を継続します。

一番注意が必要な副作用は、お薬に対するアレルギーです。軽い蕁麻疹程度の場合が殆どですが、ごく稀に（1000人に1人より少ない割合）で呼吸する気道が腫れて息が苦しくなったり、血圧が低下するなどアナフィラキシーという状態になることがあります。このような場合はすぐに病院へ行く必要があります。

厚生労働省研究費補助金(がん臨床研究事業)を用いて行った全国調査(2013～2014年)に

て、除菌治療行った18歳以下の小児・青年343名について詳細な副作用調査が行われました。副作用は全体で14.7%に認め、軟便は4.1%、軽度下痢5.2%、投与中の発疹2.1%などでした。また、治療による死亡や後遺症など、重篤な副作用はありませんでした。

5 除菌後の判定について

7日間の除菌治療が終了してから約2か月後に受診していただき、除菌前と同じ息による検査を行い、除菌治療が成功したか判断します。結果は1週間程度後に医師よりお伝えします。除菌に失敗した場合は、その後の検査及び治療が全額自己負担となるため、担当医と相談することになります。結果は北海道医療大学病院消化器内科より町へ報告されます。

6 予想される利益と不利益について

この事業に参加いただいた場合には、無料でお子さんのピロリ菌の感染有無を知ることができます。ピロリ菌に感染していても症状がないため、感染に気付くことができません。また、現在のところ、成人に対して胃カメラを行い胃炎と診断された場合のみ保険診療で検査が受けられるため、お子さんには検査の機会がありません。

ピロリ菌を治療する薬剤の医療用医薬品添付文書では、「小児等に対する安全性は確率されていない（使用経験が少ない）」と記載されており、成人と異なり保険診療で検査や治療を行うことは出来ません。治療を希望しない場合は、胃・十二指腸潰瘍やポリープ、胃がんになるリスクがあることを理解頂き、症状がある場合の受診や将来の胃がん検診の受診を強くお勧めします。以上の点について、ご本人と保護者でよく相談をしていただき、治療を受けるかどうかを決めてください。

7 副作用が生じた場合の対応・補償について

本検査・治療において副作用が生じた場合には、北海道医療大学病院消化器内科にて直ちに適切な処置を行います。その際に検査や治療が必要となる場合は通常診療と同様であり、かかる費用は保護者にお支払いいただくこととなり、特別な補償はありません。

8 個人情報の取扱いについて

提供される皆様の「個人情報」は、当別町個人情報保護条例に基づき取り扱いをし、本検査・治療にて利用する以外に、他の目的には利用しません。

9 ピロリ菌感染による将来の病気を予防するために

中学生で除菌治療をすることで将来の胃がんをほぼ確実に予防できると考えられています。しかし、一度も感染していない人と比べると胃がんのリスクが大きいと予測されています。全ての検査は100%の精度ではないため、症状がある場合は過信せず医療機関を受診して下さい。また、将来、胃がん検診など胃の検査を受ける機会には是非検査を受けて下さい。

<問い合わせ先>

(1) 北海道医療大学病院 住所：札幌市北区あいの里2条5丁目

電話：011-778-7575

(2) 当別町福祉部保健福祉課健康推進係

電話：23-4044 メール：hoken1@town.tobetsu.hokkaido.jp